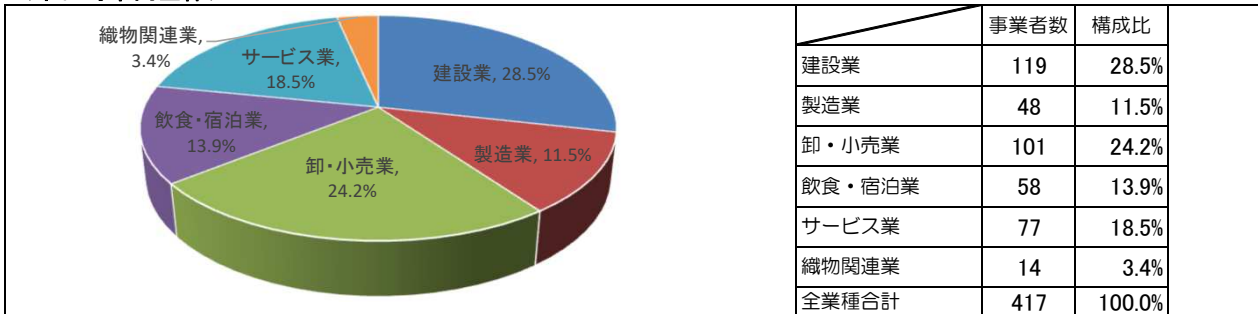


十日町市地域 企業景況調査 第3四半期報告書 (R2.10.1~R2.12.31) 会議所地区

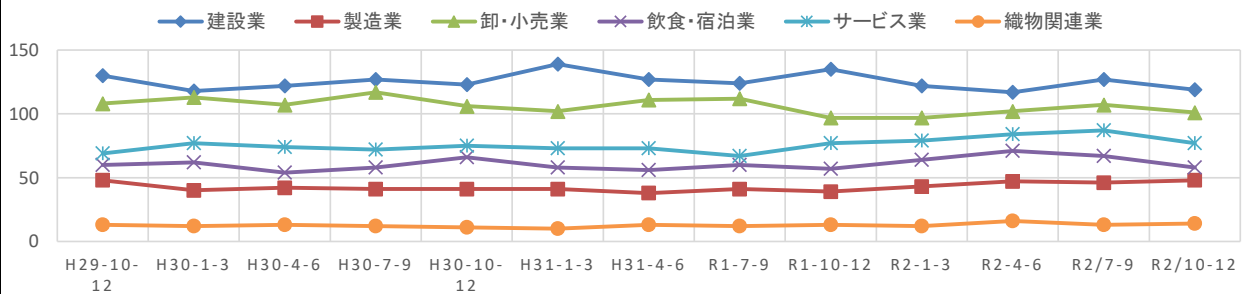
小規模事業者以外含む全事業所

◇ 調査対象事業所構成割合

<十日町市内全体>

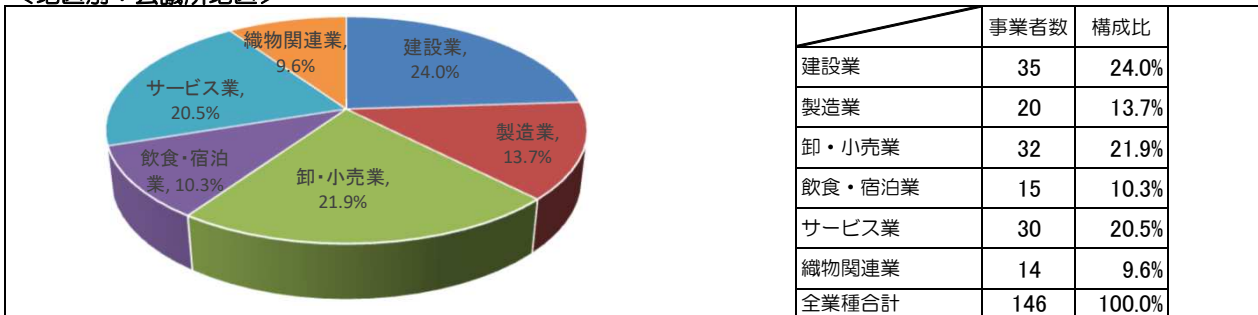


業種別調査事業所数の推移(市内全体)

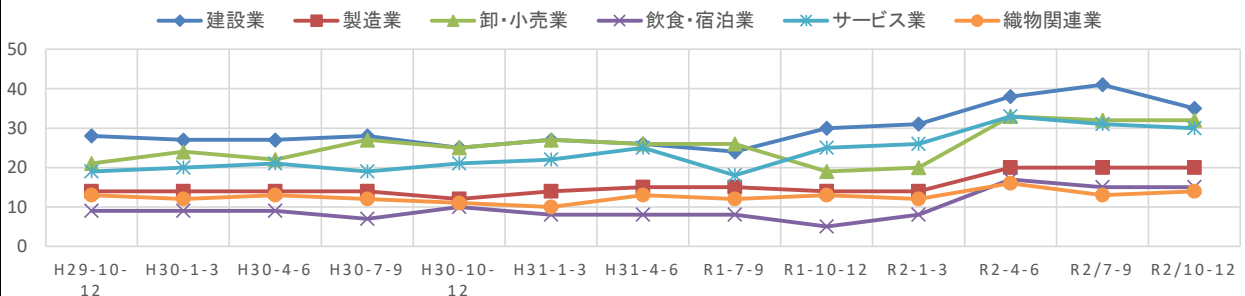


<コメント> 今回の調査回答は十日町市内の417事業所で、前回調査よりも30事業所減少している。製造業で若干増加しているものの、その他の業種はほぼ同割合で減少となっていることから、全体の業種構成割合は前回調査時とほぼ同割合となっていて、全体のバランスも大きな変動はなかった。なお、織物関連業は会議所地区のみが対象としているため、他業種よりもサンプル数が少ない。

<地区別：会議所地区>



業種別調査事業所数の推移(地区)



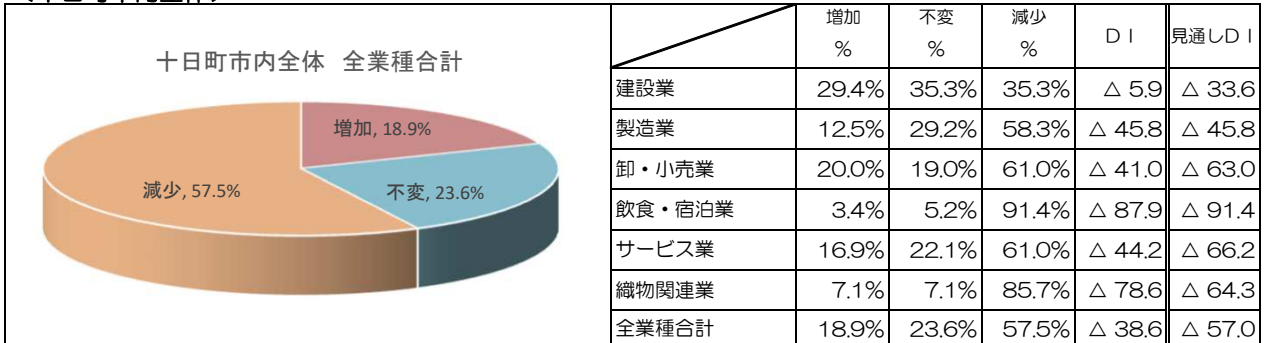
<コメント> 会議所地区の今回の調査回答状況は、配布201事業所のうち146事業所からの回答があり、回収率は72.6%であった。(前回：回答事業所152事業所、回収率75.6%)

$DI \text{ 値 (景況判断指数)} = (\text{増加} \cdot \text{好転などの回答割合}) - (\text{減少} \cdot \text{悪化などの回答割合})$

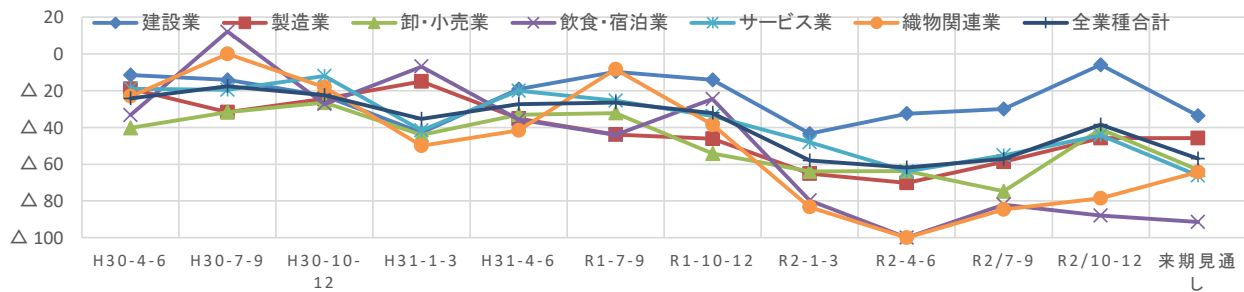
1. 売上について

- ・10月～12月の売上は前年の同期に比べてどうですか？

<十日町市内全体>

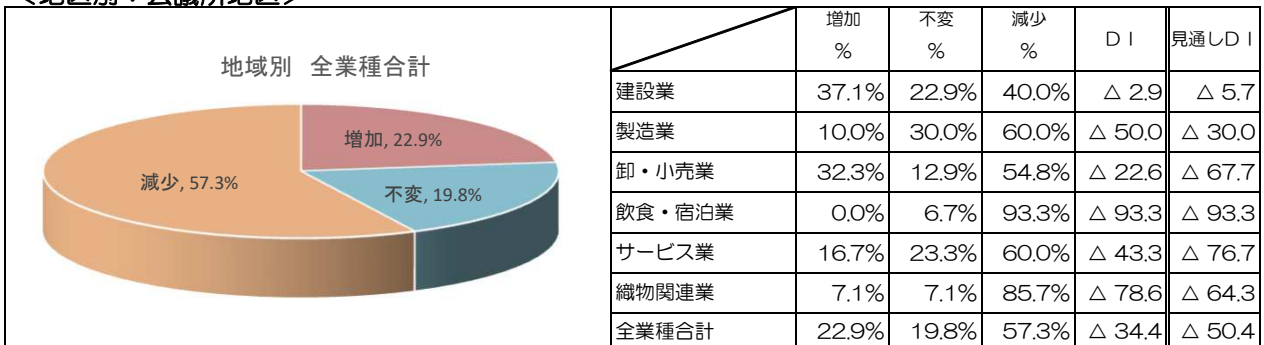


業種別売上の推移(市内全体)

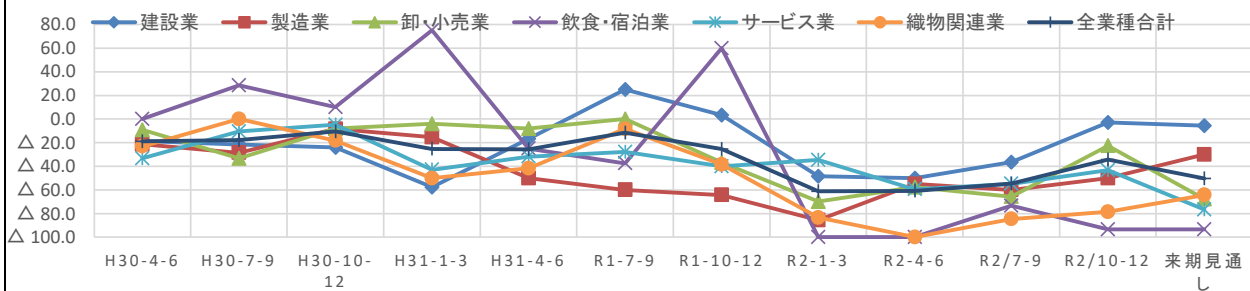


<コメント> 十日町市内全体の今期の売上状況は、全業種DI値で△38.6ポイントで、前回調査時よりも18.5ポイント増加となっている。前回調査時の見通しにて飲食・宿泊業も増加予測されていたが、新型コロナウイルス感染症の第3波の影響により年末の売上減少が今期の減少要因と推測できる。また、緊急事態宣言の再発令の影響からか、来期見通しも今期よりも減少すると予測されている。

<地区別：会議所地区>



業種別売上の推移(地区別)

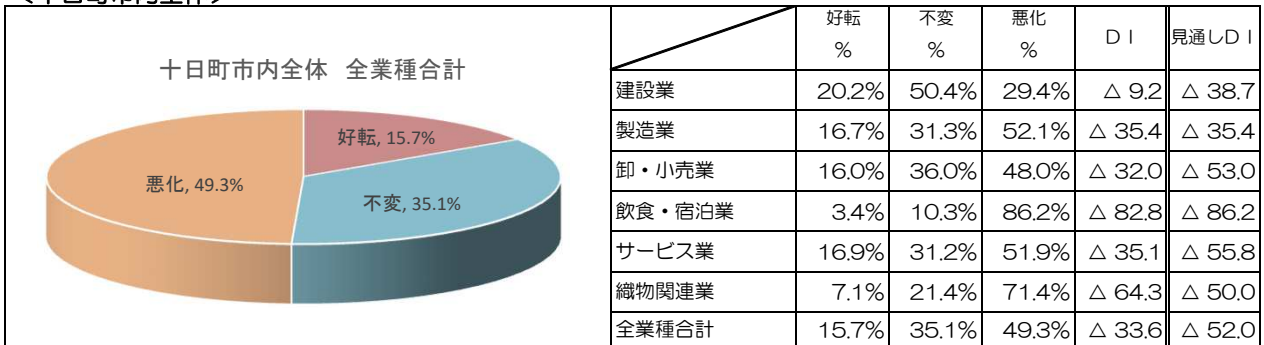


<コメント> 会議所地区の今期の売上状況は、全業種DI値で△34.4ポイントで、前回調査時よりも20.3ポイント増加となっている。市内全体の結果と同様に、前回調査時の見通しにて飲食・宿泊業も増加予測されていたが、新型コロナウイルス感染症の第3波の影響によりポイントが減少したと推測できる。卸・小売業で△22.6ポイント（前期比43.0ポイント増）、建設業で△2.9ポイント（前期比33.7ポイント増）など、他の業種は改善している。

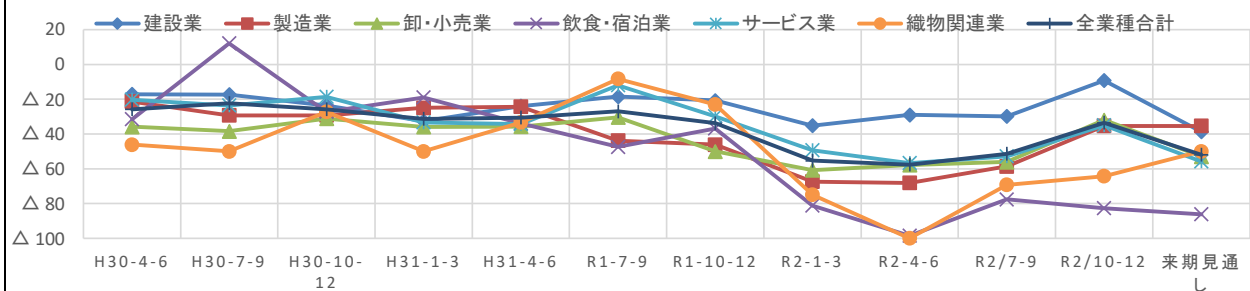
2. 採算について

- ・10月～12月の採算は前年の同期に比べてどうですか？

<十日町市内全体>

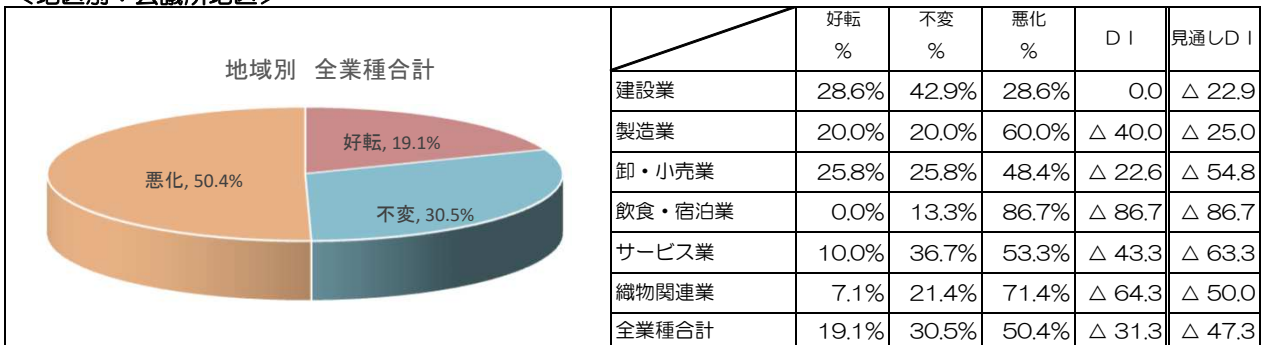


業種別採算の推移(市内全体)

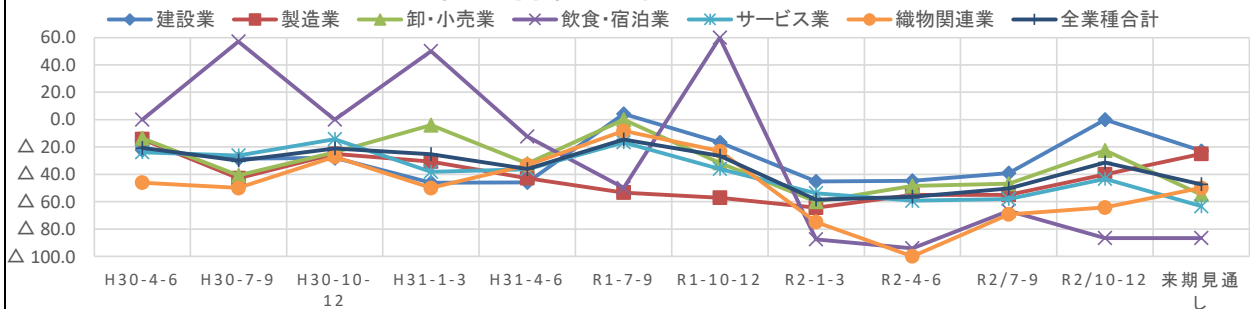


<コメント> 十日町市内全体の今期の採算状況は、全業種DI値が△33.6ポイントで、前回調査時よりも17.8ポイント好転している。飲食・宿泊業以外の業種で好転しているが、飲食・宿泊業は新型コロナウイルス感染症の影響を受けての悪化と思われる。さらに来期見通しも織物関連業以外は好転予測している業種は無く、今期よりも悪化することが予測される。

<地区別：会議所地区>



業種別採算の推移(地区別)

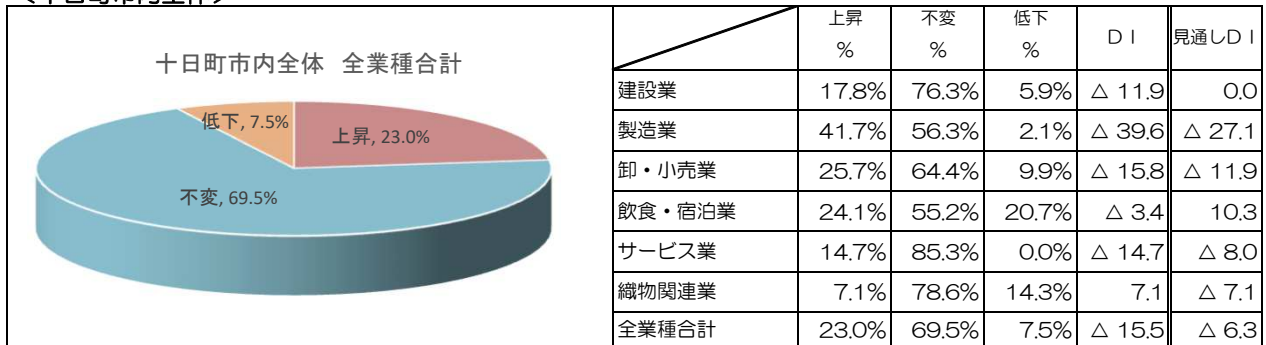


<コメント> 会議所地区の今期の採算状況は、全業種DI値で△31.3ポイントで、前回調査時よりも19.1ポイント好転している。業種別にみると、建設業が0.0ポイント（前期比39.0ポイント増）、卸・小売業が△22.6ポイント（前期比24.3ポイント増）など飲食・宿泊業以外の業種で好転しているが、飲食・宿泊業は△86.7ポイント（前期比△20.0ポイント）と悪化している。

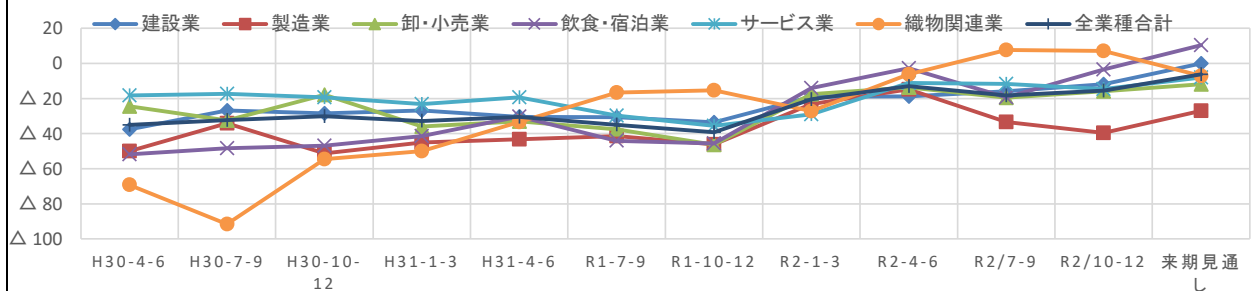
3. 仕入単価について

- ・10月～12月の仕入単価は前年の同期に比べてどうですか？

<十日町市内全体>

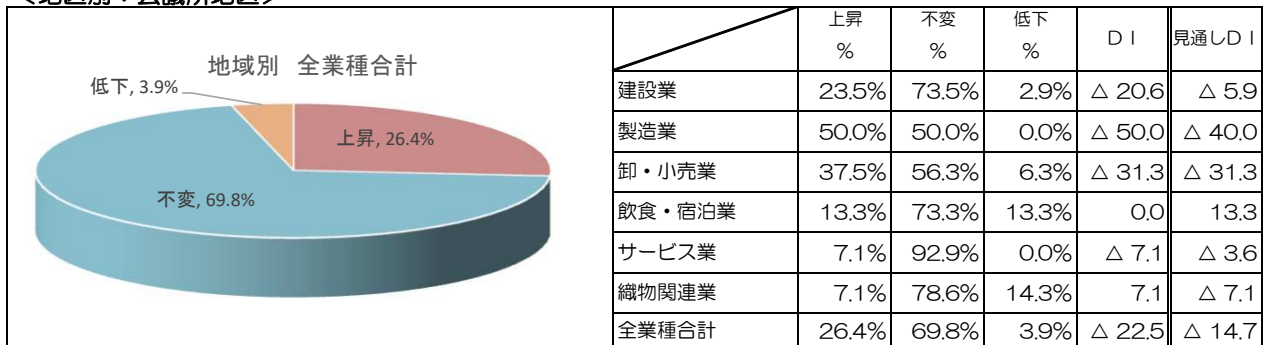


業種別仕入単価の推移(市内全体)

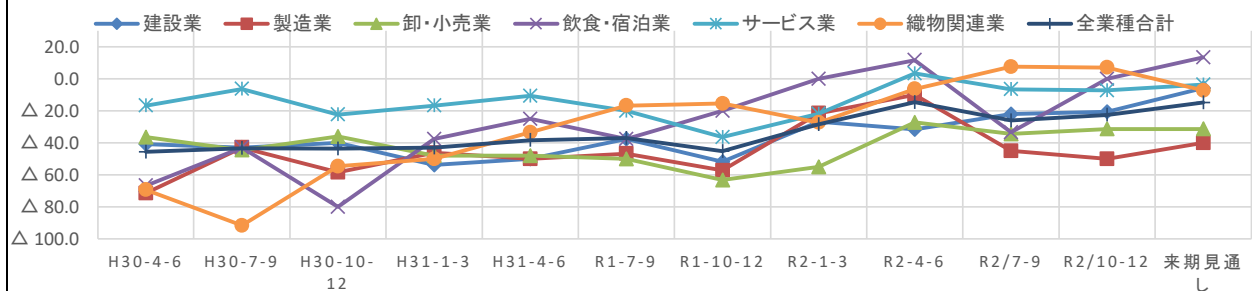


<コメント> 十日町市内全体の今期の仕入単価状況は、全業種DI値で△15.5ポイントで、前回調査時よりも2.8ポイント上昇（仕入単価の低下）となっている。製造業、サービス業、織物関連業で若干の単価上昇が見られたが、その他の業種での低下が全体数値を下げている。来期見通しにおいては、織物関連業以外で低下予測しており、今期よりも単価減少があるものと思われる。

<地区別：会議所地区>



業種別仕入単価の推移(地区別)

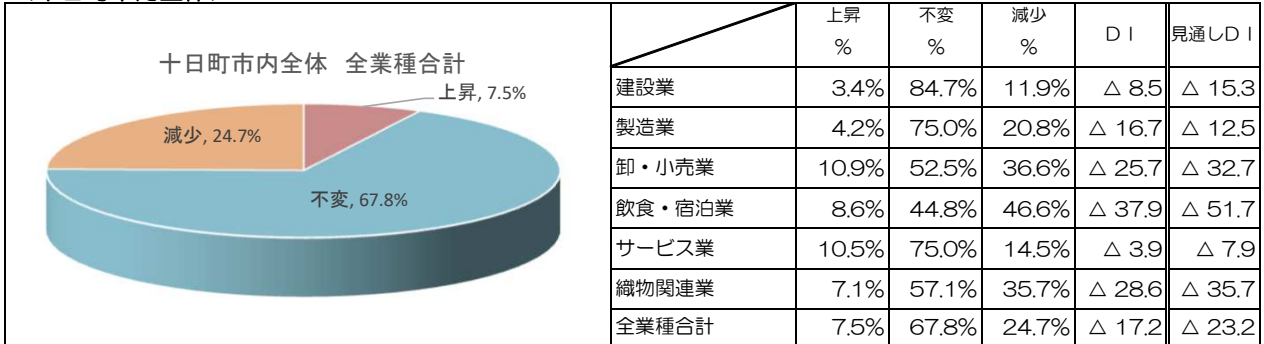


<コメント> 会議所地区の今期の仕入単価状況は、全業種DI値で△22.5ポイント（前期比3.4ポイント増）であった。製造業、サービス業、織物関連業で若干の単価上昇が見られたが、飲食・宿泊業が13.3ポイント（前期比33.3ポイント増）などその他の業種で仕入単価が低下している。来期見通しにおいては、織物関連業が単価上昇、卸・小売業が横ばい、その他の業種で低下予測されている。

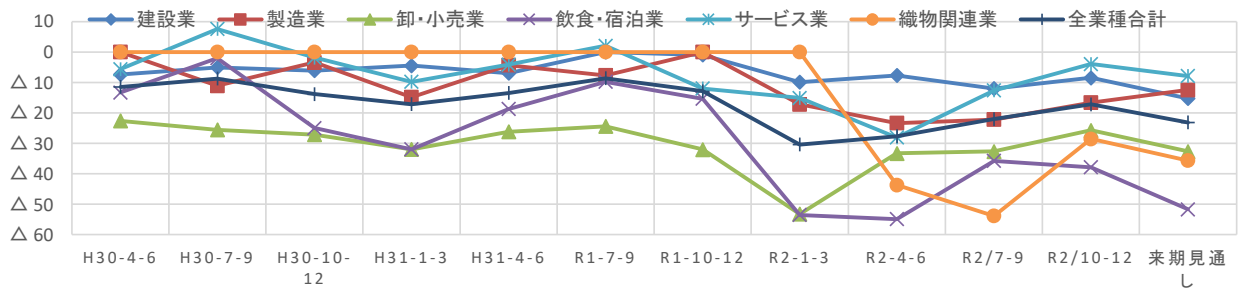
4. 販売（客）単価について

- ・10月～12月の販売（客）単価は前年の同期に比べてどうですか？

<十日町市内全体>

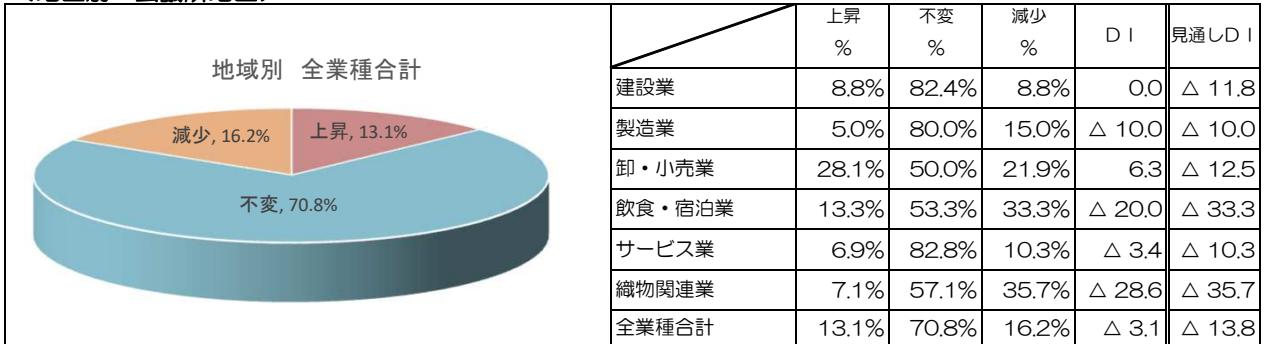


業種別販売（客）単価の推移（市内全体）

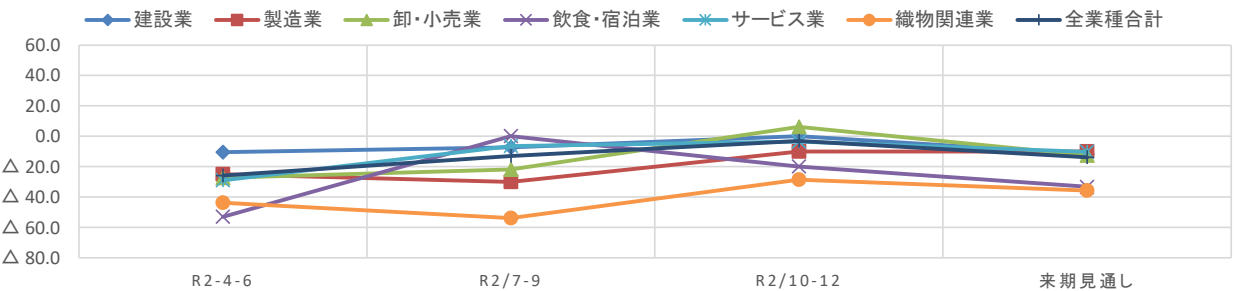


<コメント> 十日町市内全体の今期の販売（客）単価状況は、全業種DI値△17.2ポイントで、前回調査時よりも4.8ポイント上昇となっている。飲食・宿泊業にて減少しているが、その他の業種で上昇を示しており全体の数値を引き上げている。しかし、来期見通しにおいては、製造業で上昇予測されているものの、その他の業種は減少予測されており、今期よりも減少予測となっている。

<地区別：会議所地区>



業種別販売（客）単価の推移（地区別）

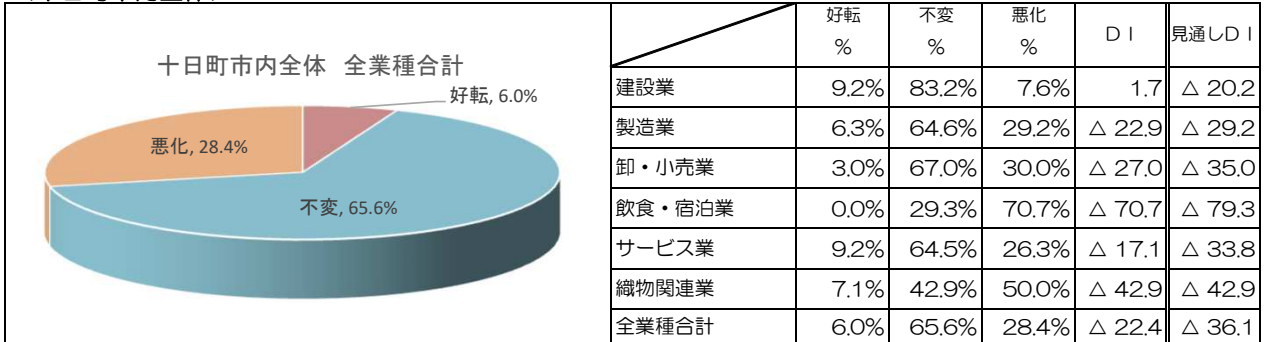


<コメント> 会議所地区の今期の販売（客）単価状況は、全業種DI値△3.1ポイント（前期比9.8ポイント増）であった。飲食・宿泊業が△20.0ポイント（前期比20.0ポイント減）で単価の低下が見られるが、その他全ての業種において上昇している。来期見通しにおいては、市内全体の結果と同様に製造業以外の業種は減少予測されている。※会議所地区では、R2.4-6月期から販売（客）単価の状況について項目を設けた。

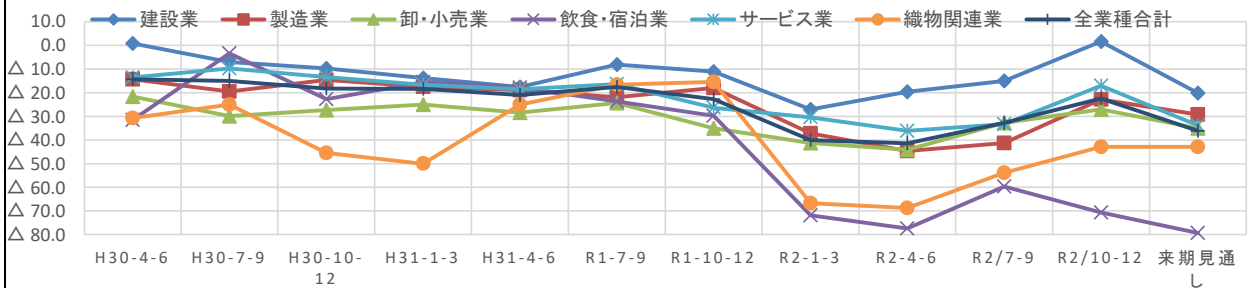
5. 資金繰りについて

- ・10月～12月の資金繰りは前年の同期に比べてどうですか？

<十日町市内全体>

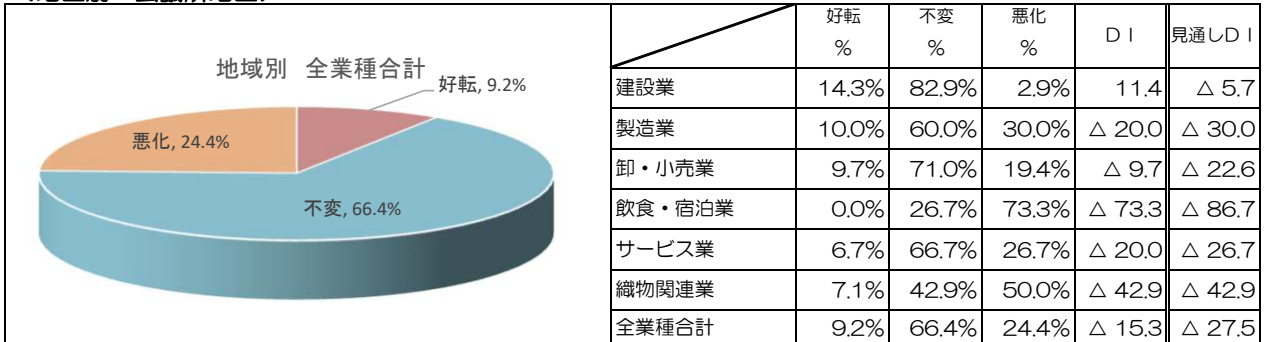


業種別資金繰りの推移(市内全体)

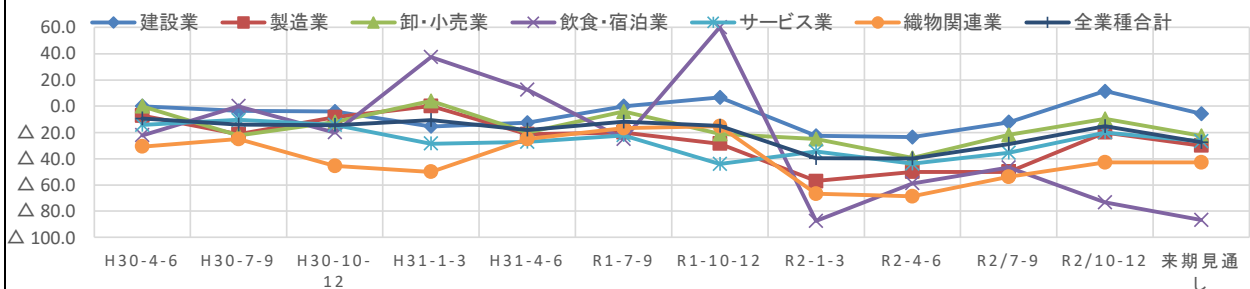


<コメント> 十日町市内全体の今期の資金繰り状況は、全業種DI値で△22.4ポイントで、前回調査時よりも10.3ポイント好転している。飲食・宿泊業が悪化となっているが、その他の業種にて好転を示しており、全業種での好転引き上げにつながっている。しかし、来期見通しでは織物関連業以外の全ての業種にて悪化予測されており、今期よりも悪化することが予測できる。

<地区別：会議所地区>



業種別資金繰りの推移(地区別)

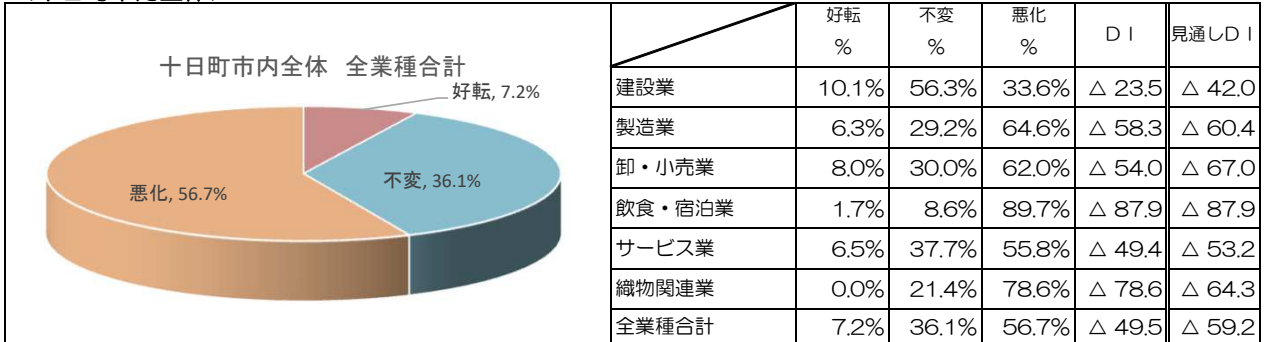


<コメント> 会議所地区の今期の資金繰り状況は、全業種DI値で△15.3ポイントで、前回調査時よりも13.5ポイント好転している。市内全体の結果と同様に、飲食・宿泊業は△73.3ポイント（前期比△26.6ポイント減）で悪化となっているが、その他の業種にて好転を示している。来期見通しにおいては、織物関連業が横ばいなもの、その他の全ての業種にて悪化予測されている。

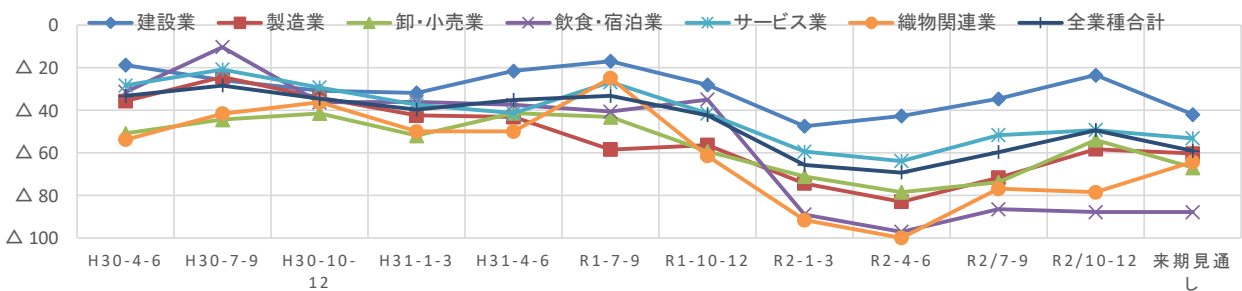
6. 景況判断について

- ・10月～12月の景況は前年の同期に比べてどうですか？

<十日町市内全体>

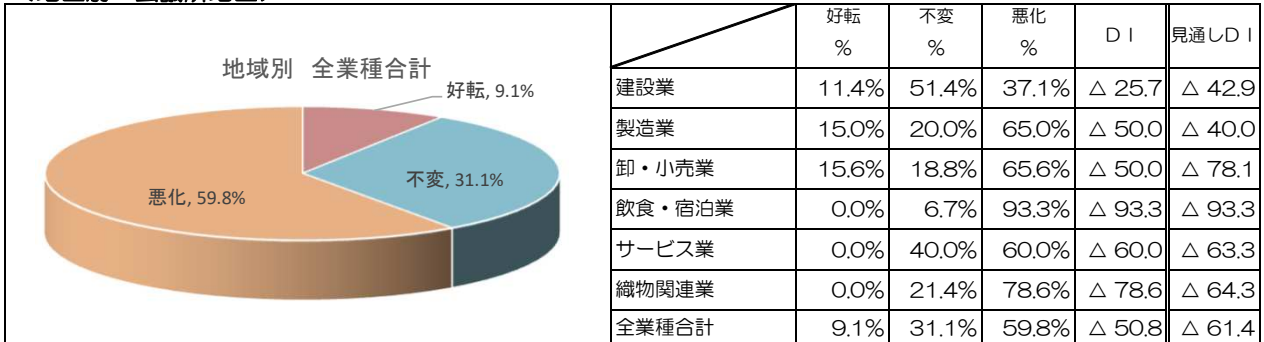


業種別景況判断の推移(市内全体)

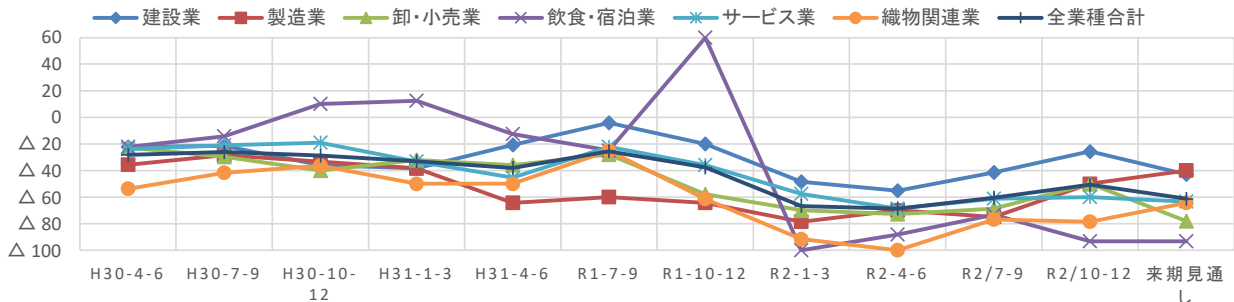


<コメント> 十日町市内全体の今期の景況判断は、全業種DI値で△49.5ポイントで、前回調査時よりも10.2ポイント好転となっている。飲食・宿泊業と織物関連業以外の業種にて上昇が示されており、業種全体の数値を引き上げている。ただし、他の調査項目と同様で、来期見通しにて今期よりも悪化予測されており、今後の動向に注視したいところである。

<地区別：会議所地区>



業種別景況判断の推移(地区別)

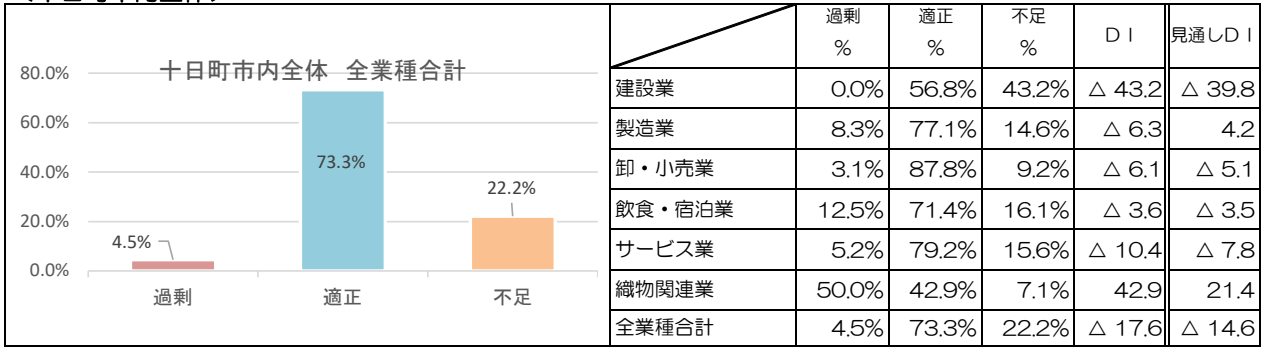


<コメント> 会議所地区の今期の景況判断は、全業種DI値で△50.8ポイント（前期比9.6ポイント増）と改善した。業種別にみると、飲食・宿泊業が△93.3ポイント（前期比20.0ポイント減）、織物関連業が△78.6ポイント（前期比△1.7ポイント減）と悪化したが、その他の業種で好転している。来期見通しでは、製造業と織物関連業で好転予測がされてるものの、全業種DI値は悪化予測がされている。

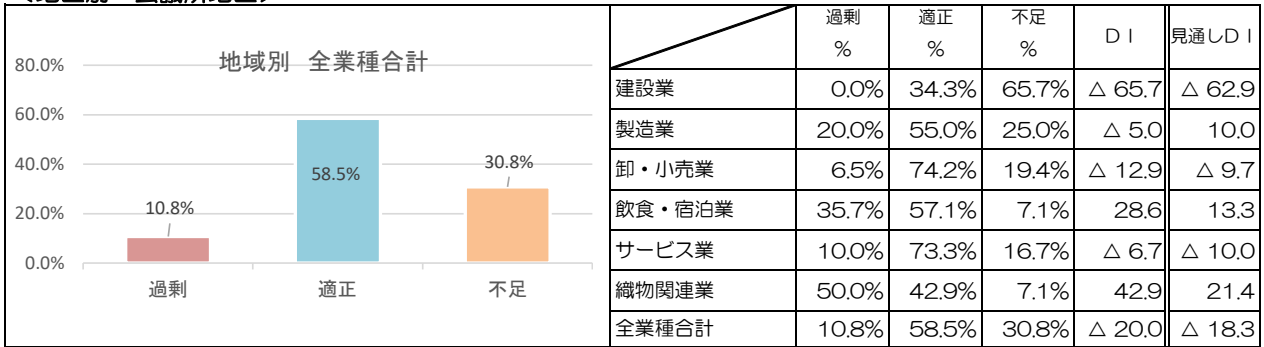
7. 従業員数について

- ・10月～12月の従業員数は前年の同期に比べてどうですか？

＜十日町市内全体＞

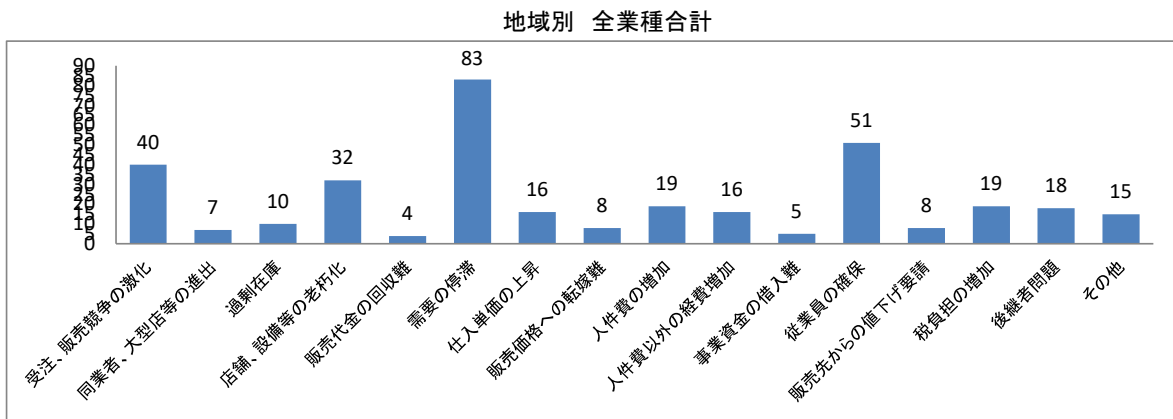
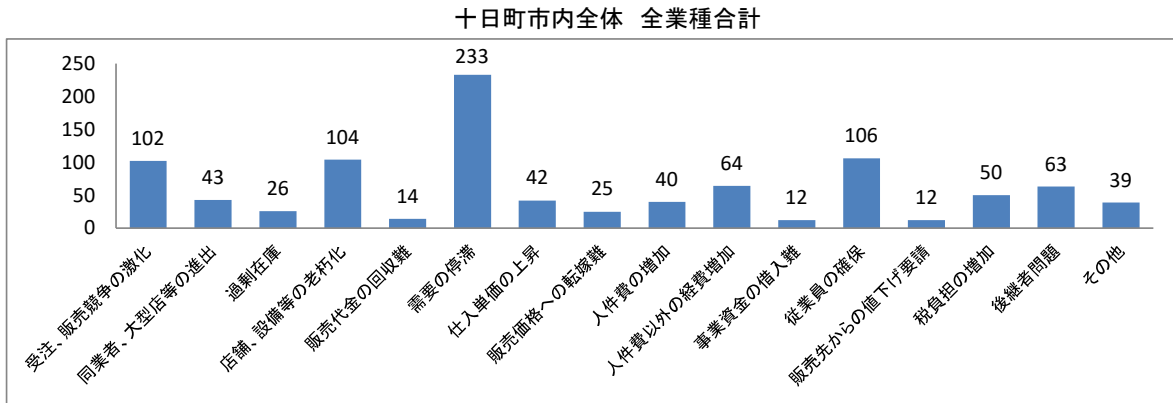


＜地区別：会議所地区＞



＜コメント＞ 今期の従業員数（雇用動向）は、過剰回答が4.5%と前回調査時よりも1.1%減少し、不足回答が22.2%で前回調査時よりも0.8%減少した。会議所地区の状況は、全業種合計においては適正回答が一番多いものの、建設業の約65%が不足回答、織物関連業の半数が過剰回答するなど、業種によって従業員の過不足の状況に違いが見られる。

8. 経営上の問題点（上位3つ）：10月～12月



＜コメント＞

今回調査での経営上の問題点は、1位「需要の停滞」2位「従業員の確保」3位「店舗、設備等の老朽化」4位「受注、販売競争の激化」であった。会議所地区の経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」2位が「従業員の確保」3位が「受注、販売競争の激化」4位が「店舗、設備等の老朽化」であった。

9. 地区の景況概要

・10月～12月時点での全体概況は

【建設業】

今期の建設業の状況は、前回と同じく雇用動向以外の項目全てでポイントが上昇し、「従業員の確保」が経営上の問題点で一番多く回答されている。また雇用動向の項目では約65%の事業所が従業員不足と回答している。来期見通しにおいては、売上や採算、資金繰りで悪化予測があるが、年末年始以降の大雪によりどのような結果になるか注視したい。

【製造業】

今期の製造業の状況は、売上や採算、資金繰りにおいてポイントが上昇した。雇用動向のDI値は△5.0ポイント(前期比20.0ポイント減)となったが、2割の事業所が従業員が過剰だと回答しており、事業所によって状況が違ってくる。来期見通しにおいては、売上や採算で好転予測されているが、資金繰りで悪化予測されている。経営上の問題点では、「需要の停滞」が一番多く回答されている。

【卸・小売業】

今期の卸・小売業の状況は、売上や採算、販売単価で大きくポイントが上昇しており、プレミアム商品券による消費喚起の効果だと推測できる。来期見通しにおいては、その反動なのか、売上や採算で大きな悪化予測がされており、その数値に注視したい。経営上の問題点では、「需要の停滞」が一番多く回答されている。

【飲食・宿泊業】

今期の飲食・宿泊業の状況は、売上や採算、資金繰りでポイントが減少している。新型コロナウイルス感染症の第3波の影響が減少要因だと推測できる。来期見通しにおいても好転予測はされておらず、今期よりも悪化することが予測される。経営上の問題点では、「需要の停滞」が一番多く回答されている。

【サービス業】

今期のサービス業の状況は、全ての項目で好転結果が出ている。卸・小売業と同じく、プレミアム商品券による消費喚起の効果だと推測できる。来期見通しにおいては、売上と採算で悪化予測がされており、実際の数値に注視したい。経営上の問題点では、「需要の停滞」と「従業員の確保」が多く回答されている。

【織物関連業】

今期の織物関連業の状況は、売上や採算、資金繰りでポイントが上昇している。来期見通しにおいても、今期よりも売上、採算で好転予測されている。経営上の問題点では、「需要の停滞」が一番多く回答されている。